

令和7年度第1回 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施 代表者会議 議事録

開催日時:令和7年5月29日(木)午後7時00分から午後8時20分

場 所:甲府市役所本庁舎4階 大会議室

出席委員:泉宗 美恵会長、由井 悟委員、木曾川真吾委員、鈴木 操委員、
堀口一美委員、藤田理恵委員、赤池 三紀子委員、小松幸一委員、
高瀬清子委員、横打 幹雄委員

欠席委員:星野 和實委員、三瀬 和彦委員

事務局:望月保健衛生部長、永倉保健衛生総室長、深井健康政策課長、
浅川地域保健課長、窪田福祉総室長、小林健康保険課長、石川福祉支援室長、
森本長寿介護課長、原田地域包括支援課長、高野健康政策課係長、
山下健康政策課主事、
(一体的専門職)鶴田看護師、厚芝看護師、丸山作業療法士、住谷管理栄養士

(司会:深井健康政策課長)

1 開会

2 委嘱状交付

甲府市高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施に関する代表者会議の委員に望月保健衛生部長から委嘱状の交付を行った。欠席委員は2名。任期は、本年5月1日から令和10年3月31日までとなる。

3 保健衛生部長あいさつ

保健衛生部長よりあいさつを行った。

4 事務局職員紹介

5 会長および副会長の選任

委員の互選により承認

会長 泉宗美恵委員(山梨県立大学)

副会長 横内幹雄委員(甲府市社会福祉協議会)

6 会長あいさつ 泉宗美恵委員(山梨県立大学)

会長より挨拶を行った。

7 議事

(1)令和7年度基本方針及び各事業の実施について

ア 令和7年度基本方針(修正後)

事務局:

令和7年度基本方針(修正後)について説明。

質問や意見はなし

イ 糖尿病等重症化予防事業

事務局:

糖尿病等重症化予防事業について説明

会長:

これまでも糖尿病の重症化予防の観点で、事業を行っていたわけだが、今年度からは、重症化しやすい人を抽出して、医療に繋がってない人を医療につなげることで、糖尿病の悪化を予防し、健康状態を維持していく。糖尿病の患者さんの多くが、自覚をしにくい、自覚症状があまりないというところで、受診に繋がりにくい実態があると思う。そうした意味で今の自分の体の状況を、把握していただく、自覚していただいて、医療につなげるというのは非常に重要だと思う。重症化予防ということで、今回、対象者については、国のガイドラインを基に、市独自の基準というところも説明いただいたが、日頃糖尿病の患者さん等に関わっている専門職の皆さん、いかがか。

委員:

この事業は、診断や治療など、特に糖尿病という病気を本人にご理解いただくためには、医師への説明であったり、関連する色々な専門職の方との連携も出てくると思う。

医療と甲府市との連携、医師の協力が必要であると思うが、どのような形で進めているのか、状況を教えていただきたい。

会長:

医師との連携、未受診者、医療に繋がってない人を医療につなげるというところで、医師に甲府市の事業の意図を、把握し、受け取っていただきながら、医療を継続していただくことについて、医師への働きかけも非常に重要になってくると思うが、医師会としてご意見いただいていることがあれば、説明いただきたい。

事務局:

医師会とは事前にこの事業について、お話をさせていただき、ご意見等いただいているところ。医師会からは、医療機関へつなぐ時に、甲府市が行っている事業で受診勧奨したことがわ

かる、抽出基準や健診結果などが記載された連絡票といったものを作り、それを患者さんが医療機関へ持っていく。高齢者本人が受診した理由を主治医へ伝えることが難しいということも考えられるので、その票を見て、主治医の先生に判断していただく、そのようなやり方はどうかとご意見をいただいた。現在調整をしているところ。

会長：

市民の皆さんも、健診の結果を数値だけで説明を受けても、理解が十分でない点もあるので、そのような方法を行うことで、なぜ自分が受診をしなくてはいけないのか、治療を継続しなければいけないのかということ、主治医との話の中で、進めていただくと、より理解が進んで、これは続けなくてはいけない、これを悪くしてはいけないのだというところに繋がっていくので、この連絡票というのは、とても有効ではないかと感じた。

委員：

甲府市からは、高血糖などの方に対して、歯科の受診勧奨をしていただいているので、私たちは歯周病の関連のもとで、高血糖の方への、住民の教育、血糖のコントロール、ひいては血圧のコントロール、そのようなお話をすることができている。今後もそのようなシステムは続けていただければありがたい。

会長：

こうした、非常にきめ細やかな、糖尿病の患者さんの重症化について、医療に繋がっていない人をまず治療につなげるということを重点的に取り組む意義というのは非常に大きいと思いますので、ぜひこれを取り組み、評価していただくと良い。

委員：

この取り組みは、非常に個人情報に関わってくる。家族は病気を隠したいという思いが非常に強いため、そこが自治会としても一番苦労している。透析と糖尿病等の治療をしているが、嫌がって病院に行かない人がいる。家族を納得させることが難しい。どうしたらいいかと頭を痛めている。

会長：

そういった方々を、地区で把握するけれども、医療につなげることは難しいため、ぜひ行政に、つなげていただいて、行政からも働きかける。こういった場合は、地域包括支援センターや、どういった事業担当者につなげればいいのか。そこの連携がうまくいくと良いと思うが、事務局いかがか。

事務局：

高齢者の方でリスクの高い方、そういったご家族の中で、隠したいとか、家族が説得しても

なかなかうまくいかないということで、困難事例として話を聞いている。相談をしていただければ、訪問して話を聞いたりすることもできるので、ぜひ、市役所、地域包括支援センター等にご相談をいただければと思う。

会長：

お願いいたします。

事務局：

地域保健課には、地区担当保健師がいる。地域包括支援センターとも連携しながら、個別支援を行っているが、医療に関することや、身体に関するご相談などは、地区担当保健師も承っていて、訪問等しているのです。そういった相談をしたいという方がいたら、地域保健課の地区担当保健師までご連絡をいただければと思う。

ウ げんきお届け隊

事務局：

げんきお届け隊について説明

会長：

この事業はこれまでも行ってきたが、どのような成果があったのか。訪問して受診に繋がった人たちが、実際にどのくらいいるのか、実績を教えてください。

事務局：

実績として、訪問にお伺いすると元気な方が多いというところがまず 1 点わかった。また、体調が悪い方もおり、そういった方に医療機関や健診受診勧奨をしたところ、大体 3 割ぐらいの方が、医療受診したり、健診を受けたりといった行動を起こしている状況。

会長：

3 割の方が、医療や健診に繋がるということは非常に大きな成果だと思うので、継続的に働きかけをしていく必要がある方々だと思う。

エ 健康づくり同窓会

事務局：

健康づくり同窓会について説明

委員：

同窓会の出席率はどうか。周知の仕方にもよるのか、自治会連合会と一緒にしているのかそのあたりがわからない。どの程度の出席率があるのか分かれば教えていただきたい。

事務局：

同窓会では人数の制限はしておらず、全地区で 75 歳以上の方を対象としているが、広く 75 歳以下の方も参加をしていただける事業となっている。昨年は 31 地区、31 会場で 460 名の方に参加をしていただいた。これまで概ね、地区で平均 15～20 名ぐらいの参加であるが、地区によって参加者の多い少ないはあるかと思う。

会長：

この事業はいわゆるフレイル予防を推進していくために、非常に有効な機会となっていくと思う。できるだけ大勢の地区の高齢者の方々にご参加いただくために、自治会との連携や民生委員さんからも働きかけていただくということも必要になってくるかと思う。

委員：

私たちの地域ではこの健康づくり同窓会の参加者を 75 歳という年齢で区切っていない。どうしても家族も入れて話をしないと、上手くいかないということがあるので、家族を入れて参加するようにした。

会長：

確かにご本人だけではなく、家族にもどのような活動をしていくことが必要なのかを知っていただくことは、非常に大切で、ペアで参加していただくことは良い方法だと思う。

委員：

同窓会だが、遠くて行けない方が大勢いる。ですので、私は「いきいきサロン」を 15 年やっております、同窓会と同じことを、自治会の集会所で行っている。

また、フレイル予防に関して、2 年になるが、体操教室を作り上げた。私が代表をしているが、最高が 91 歳の方で、私が多分一番若いと思うが、月 3 回、約 40 人の高齢者が集まっている。市からも援助をしてもらいながら、とても良い先生に恵まれ、楽しくやっている。1 回、2 時間だが、体操を 1 時間。その体操の中でも、筋肉を鍛えて増やすことを一番の目的でやっているの、有酸素運動を加えている。もう 1 回ぐらいふやしてという声もあるが、月 3 回で精一杯と伝えている。

また、体操の後にやりたい方のみ残って、ポッチャをやっている。参加者は、今度ポッチャクラブを立ち上げて欲しいと言っているため、4 月から立ち上げて、楽しく、運動をして、フレイルによいと思いきり取り組んでいる。

会長：

フレイル予防は継続的に取り組んでいくということが非常に重要なので、そういう意味では住民の人たちが自ら、そういった取り組みを始めるというのは本当に大切なところで、素晴ら

しいと思う。このような取り組みが、他の地域でも広がっていくと良いと思う。より生活の、自分の暮らしの場に、身近なところで参加できるというのが、続けられるポイントになるのかもしれない。

委員：

この取り組みだが、フレイル予防プラス、皆さんが友達になれるということ、知り合いが増えて、段々と和が広がり、月3回だが水曜日にとても楽しく行っている。参加者から月に3.4回やってほしいとの声があるが、お金の面でもそんなに取れないので、月謝を1000円もらって行っている。

とてもすばらしい先生に変わり、1時間があつという間。私は筋肉がガクガクきて、筋肉痛が常に大変。皆さんは何ともないというが、私はとても辛い。

大変だが、住民が主体となって、執行部にも恵まれ、楽しく運動をしている。

会長：

介護予防には、こうした健康づくりという要素と、もう1つ社会的な繋がりが非常に重要だと言われているので、まさに2つの要素を実践されているのは素晴らしいと思った。

理学療法士の方で健康づくりというところで、住民の人たちが、継続的に筋肉をつけていく、できるだけ歩くことができることが、生活の上ですごく大切になってくると思いますが、何か意見はあるか。

委員：

私は湯村温泉病院にいますが、通所Cを行っており、結構リピーターの方が多い。当院では送迎なしでやっているの、結論的には比較的元気な方が多いが、毎日やってもらう運動を渡してチェックをしてもらうような、見える化をして形にすると、そこに参加してくる人達というだけで、すでに結構意識の高い方なのでとても真面目に継続的にやってくれる。なので、3ヶ月だが、体力測定をすると、必ず良くなっている。間があいたりすると、また元に戻るということが、リピーターの方だと実感できる。そうすると、また次に間があったときに、ノートみたいなものがあるが、その内容を継続的にやってくれる。失敗も経験してきて、皆さん自分なりに、やっていくっていうことを経験している。

歩けることが大切というのはその通りで、本日説明していただいた事業も、そこに行く手段とか力とか、そういうことがすごく大事になってきて、行けないから行かない。雨が降ったら、行けない、行かないみたいなものもあるので。そういったところも自分で受診ができる歩く力というのは、維持できるということが目標だというような話をしながら、興味を持っていただき、失敗談も入れながらやっていく。一番は自分が体験できることは継続になる、繋がることだと思う。健康づくり同窓会のような取り組みに、参加率を高めたいとすごく思った。

会長：

きっかけづくりをどのように仕掛けていくのかということが、非常に重要で、住民同士の口コミといいますか、1人で参加するのではなく、お友達を誘って、みんなで行ってみようといった、そのような雰囲気を作っていくことも、必要になってくるでしょう。

委員：

お話を色々伺い、今までご説明いただいた事業、この健康づくり同窓会までの事業はほとんど対象者が絞り込めている事業ではないかと聞いていた。

同窓会はあまりにも広く対象者がいるので、非常に難しいかなと思っている。先ほど他の委員さんがおっしゃった、みずから、こういったことに関心を持ち、来ていただくということが一番理想的な形ではないかと思った。

私ども社会福祉協議会は、長寿介護課から委託を受けて、いきいきサロンをしている。

通いの場へのアプローチについては、そういった健康に関心のある方のところに行くにあたって、手を挙げていただいて、ご紹介していくことがいい形かと。特に難しい事業なので、今までの事業はデータから見て抽出してピックアップしていけばいい。この事業はポピュレーションで広いので。中には、もともとすごい関心がある方が多く、呼びかけたらもうやってるよという方もいらっしゃるということが実際あるので、実際来ていただきたいという所にアプローチしていくのが一番いいのかなと思っている。

会長：

地域の中にはいきいきサロンのような、継続的に運動したり、皆さんが集まるような場もあるというところ。この健康づくり同窓会は、ある意味各地区の単発的な事業にはなるのだが、これを続けたい人は、地域の中に、いきいきサロンのような場もありますよっていうことを、紹介できると良い。いきいきサロンや他に取り組みをしている場など、地域の中にある取り組みを結構知らないため、周知していくと機会になると良いと思った。

今年度、この事業が、後期高齢者の介護予防、健康づくりに効果的なものになるように、専門職の皆さんにはぜひ、積極的に取り組んでいただきたい。

8 その他

質問・意見なし

9 閉会